

特 別 号 通巻18巻第4号
1998年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎077-585-4397

〒524-0212
守山市服部町2250番地

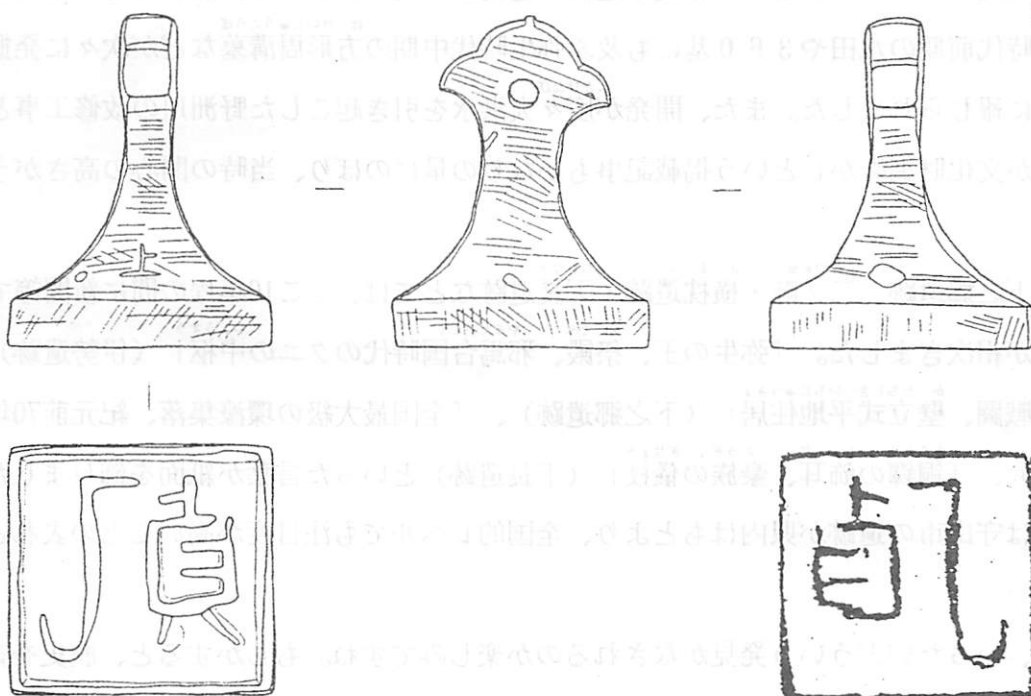
はじめに

「乙貞」は昭和55年秋にオープンした市立埋蔵文化財センターの機関紙として、翌年1月から発行が開始されました。「乙貞」とは服部遺跡の溝から出土した銅印の文字のことで、奈良時代終わり頃に使用された有力者の私印と考えられています。銅印の大きさは印面方3.3cm、高さ4.2cm、重さは75gで、鈕下部に「上」の文字が刻まれています。発掘当時（昭和50年）古代の銅印が出土することはたいへん珍しく、その印文がセンターの機関紙名に採用されたのです。

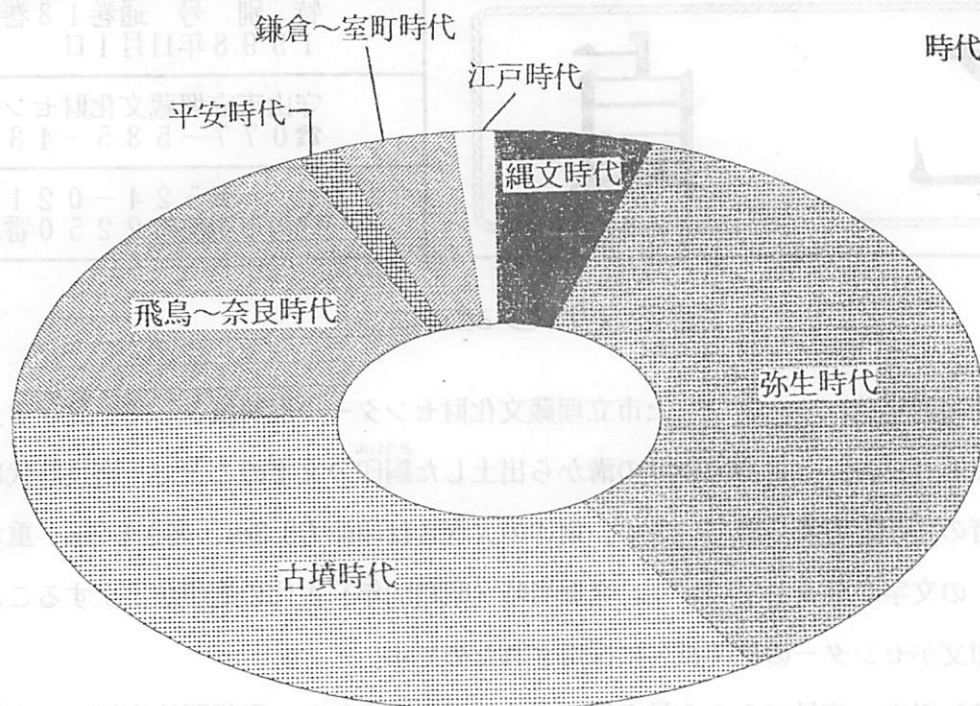
「乙貞」は発行以来、前号で100号を迎えることができました。発行開始当初、40程しか知られていなかった守山市内の遺跡も、開発の増加に伴う発掘調査件数の増加により、現在では141までその数が増えています。近年では伊勢遺跡や下之郷遺跡など重要な遺跡の発見が相次いでおり、全国的に注目される地域となっています。調査成果を速報的に掲載する「乙貞」の情報量も年々増え、その利用価値も高まってきています。今後も内容を充実し、よりわかりやすい紙面作りを行っていききたいと思います。

さて、今号では過去に調査された遺跡調査を少し振り返って見ましょう。

銅印「乙貞」



時代別掲載グラフ



上のグラフは埋蔵文化財センターが収集している新聞記事資料のうち、過去24年間に報道された守山市内の遺跡の時代別掲載数を表したものです。これをみると弥生時代と古墳時代が全体の7割を占めていることがわかります。これは、弥生時代・古墳時代の遺跡数が多いだけでなく、この時代の遺跡の注目度が高いことを示しており、守山市の遺跡の特徴をよく表しているといえます。

また、次ページのグラフは同じ資料を遺跡別に表したのですが、守山市内での発掘調査の草分け的存在となった服部遺跡が圧倒的量を占めています。服部遺跡は野洲川改修工事を契機に大規模な調査が行われ、縄文時代から中世にかけての膨大な遺構や遺物が検出されました。調査当時（昭和49年～昭和54年）、弥生時代前期の水田や360基にも及ぶ弥生時代中期の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}などが次々に発掘され、新聞等で大々的に報じられました。また、開発が度々大洪水を引き起こした野洲川の改修工事という性格から、「開発か文化財調査か」という掲載記事もかなりの量にのぼり、当時の関心の高さがうかがえます。

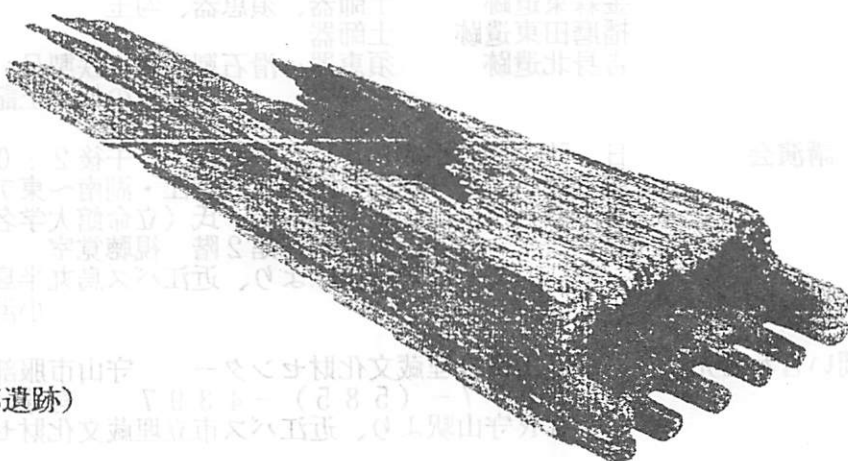
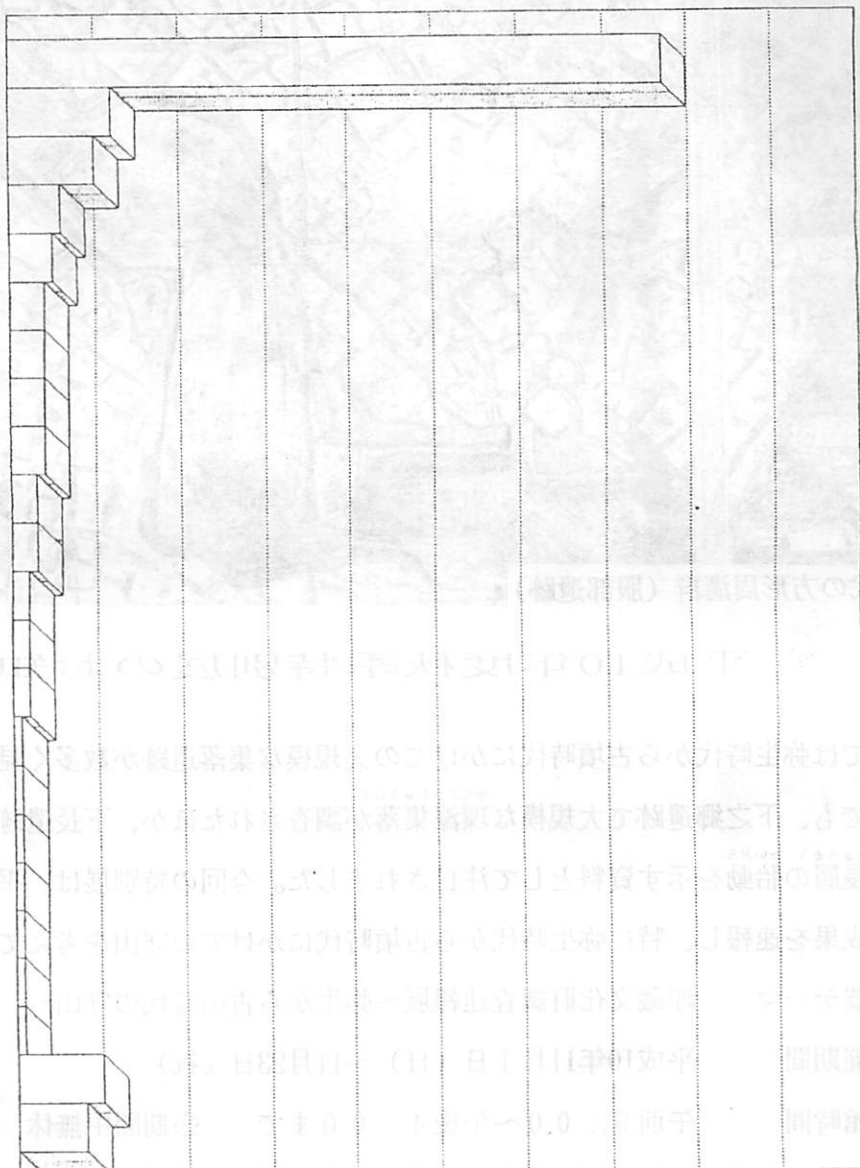
伊勢遺跡、下之郷遺跡、二ノ畦^{ふたのせ}・横枕遺跡^{よこまくら}・下長遺跡^{しもなが}などでは、ここ10年程の間に新聞等で大きく報道される発見が相次ぎました。「弥生の王、祭殿、邪馬台国時代のクニの中樞」^{さいでん やまたいこく ちゅうすう}（伊勢遺跡）、^{たじゅう}「多重環濠、弥生の戦闘、壁立式平地住居」^{かべたちしきへいちじゅうきょ}（下之郷遺跡）、^{かんこう}「全国最大級の環濠集落、紀元前70年」^{どうたく しよくじ ごうぞく ざじょう}（二ノ畦・横枕遺跡）、^{どうたく しよくじ ごうぞく ざじょう}「銅鐸の飾耳、豪族の儀杖」（下長遺跡）といった言葉が紙面を飾りました。こうした記事の扱いは守山市の遺跡が県内はもとより、全国的レベルでも注目度が高いことの表れといえるでしょう。

さて、今後、いったいどういう発見がなされるのか楽しみです。もしかすると、歴史を書き変えるような発見があるかもしれません。

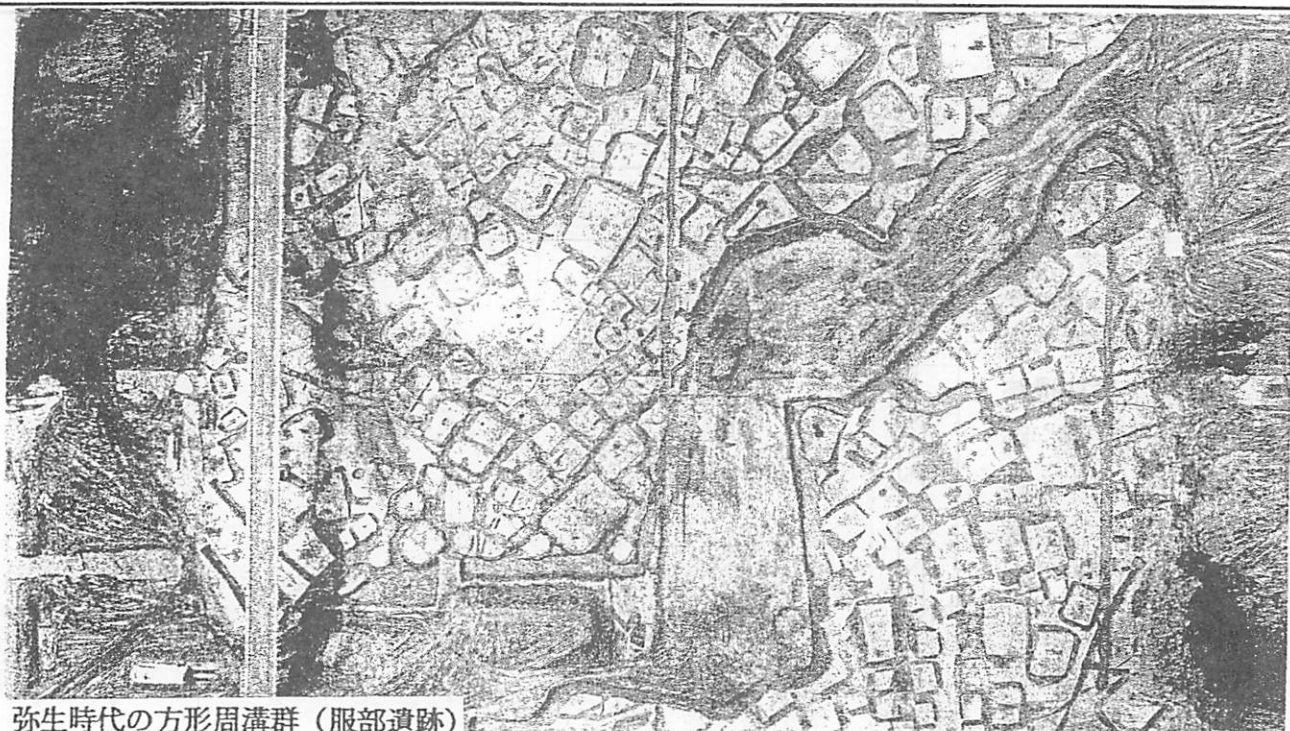
遺跡別掲載グラフ

0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

服部遺跡
伊勢遺跡
下之郷遺跡
下長遺跡
二ノ畦・横枕遺跡
吉身西遺跡
川田遺跡
益須寺遺跡
酒寺遺跡
播磨田東遺跡
二ノ畦遺跡
赤野井湾遺跡
吉身北遺跡
横江遺跡
赤野井遺跡
二町鏡遺跡
川原田遺跡
八ノ坪遺跡
塚之越遺跡
吉身南遺跡
小津浜遺跡
体験学習会
特別展開連



古墳時代の琴（服部遺跡）



弥生時代の方形周溝群（服部遺跡）

平成10年度秋季特別展のお知らせ

守山市では弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落遺跡が数多く見つかっています。平成9年度の調査でも、下之郷遺跡で大規模な環濠集落^{かんごうしゅうらく}が調査されたほか、下長遺跡では大型建物や儀仗^{ぎじょう}が発見され、首長層^{しゅちょうそう}の胎動^{たいどう}を示す資料として注目されました。今回の特別展は、平成9年度の調査成果と平成10年度の成果を速報し、特に弥生時代から古墳時代にかけての守山を考えてみたいと思います。

1. 開催テーマ 埋蔵文化財調査速報展～弥生から古墳時代の守山～
2. 開催期間 平成10年11月1日（日）～11月23日（祝）
3. 開館時間 午前9：00～午後4：00まで ※期間中無休
4. 主な展示品

中島遺跡	弥生土器（前期）、石鏃、石斧
下之郷遺跡	弥生土器（中期）、木偶、石剣、石鏃、木製品
伊勢遺跡	弥生土器（後期）、独立棟持柱付き建物の柱根
下長遺跡	古式土師器、銅鏃、木製品
金森東遺跡	土師器、須恵器、勾玉
播磨田東遺跡	土師器
吉身北遺跡	須恵器、滑石製玉類、鉄製品

その他、上記遺跡の写真パネルなど。

5. 講演会

日	時	平成10年11月14日（土）午後2：00～4：00
演	題	「邪馬台国時代の近江・湖南～東アジアの中の倭人社会～」
講	師	山 尾 幸 久 氏（立命館大学名誉教授）
場	所	守山市立図書館2階 視聴覚室
		JR守山駅より、近江バス烏丸半島行 山柿団地下車又は、 小浜行 守山高校口下車徒歩5分

【問い合わせ先】

守山市立埋蔵文化財センター 守山市服部町2250番地
 ☎077-（585）-4397 有線（速）38112
 JR守山駅より、近江バス市立埋蔵文化財センター行終点